

第3回平塚市地域福祉計画策定委員会

第3回平塚市地域福祉活動計画策定委員会

日時：平成31年2月4日（月） 14時00分 ～ 17時00分

場所：平塚市役所 3階 302会議室（災害対策本部室）

出欠：欠席1名（久保委員）

要録：

（福祉部長あいさつ）

- 昨年11月に実施したパブリックコメントの結果を踏まえ、平塚市地域福祉リーディングプランの素案を作成した。
- パブリックコメントについては、9人から計26件のご意見をいただいたところ。
- 本日の委員会では、パブリックコメントで寄せられたご意見の概要と本市の考え方、計画策定後の進行管理体制などについてもお示しする。そして、皆さまのご意見を踏まえて完成を目指していく所存。何とぞ忌憚のないご意見をよろしく願います。

議事：

（1）パブリックコメント結果概要について・・・資料1

（事務局）

- 昨年11月末から1か月間実施したところ、9人から計26件のご意見をいただいた。意見ごとに、本市の考え方と修正の有無を記載している。最終的な公開対象は、太枠の中のみとなる。
- 今回のパブリックコメントにおいて最も関心が高かったのは「終活」への支援に関する部分であり、さまざまなご意見をいただいた。
- 計画書等の修正を行わない意見についても、施策事業の展開の中で対応していく。

（質疑応答・意見交換）

特になし。

(2) 平塚市地域福祉リーディングプランについて ・ ・ 資料4、参考資料
(事前配付資料)

(事務局)

- パブリックコメント等を踏まえ、資料4のとおり計画書の修正を行った。
- 本日配付した計画書39ページの修正及び65ページの修正は、時点の修正を行うもの。その他、名称の変更や表記の変更等を行った。
- 資料4に記載した箇所以外にも、例えば別冊25ページのコラムのように、今回新たに作成したページがある。コラムは、本編を補足する趣旨で、別冊に数か所追加した。

(質疑応答・意見交換)

- ★ 委員：5つの計画を一つにまとめており、庁内での情報共有ができて良かった。
- ★ 委員：資料4と計画書の記載で異なる部分がある。修正すべき。
→ 事務局：資料4が正しいため修正する。
- ★ 委員：別冊133ページの成年後見制度のコラムについて、書き出し部分と中身の順番がわかりづらいため、説明文の表記を検討してほしい。
→ 事務局：説明文の順番を変更する。
- ★ 委員：地域医療福祉拠点構想について、タウンニュースに記事が掲載されていた。計画書の78ページから79ページに記載されているが、もう少し深く触れることは可能か。
→ 事務局：書き方そのものはこれ以上の踏み込みが可能かどうか検討するが、いずれにしても庁内に本事業の検討会議を開催するなど、掲載事業の進捗状況のチェック体制を設けることとしている。
- ★ 委員：資料1の通番5について、障がい者への理解を深める取組みに、子どもだけでなく保護者も参加することが、障がい理解につながると感じる。障がい当事者との交流を通じ、人を思いやる気持ちを醸成するよう取り組んでいただきたい。
- ★ 委員：パブリックコメントの結果から、成年後見制度への市民の関心が高まっていることがわかる。しかし、成年後見利用支援センターやひらつかあんしんセンターへ相談予約をする際に、2～3か月先となってしまうことがある。1～2週間程度で予約が取れる体制として欲しい。
→ 事務局：「成年後見利用支援センター」については、一般的な相談であれば、センター職員が随時受け付けている。弁護士等への専門相談についても、1か月後程度で予約が取れる体制となっている。

他方で「ひらつかあんしんセンター」に関しては契約件数が増加しており、お待たせしている実態はある。遅れを取り戻せるようにしたい。

- ★ 委員：計画書17ページに想定人口推移の記載があるが、想定には大神エリアの開発も見込まれているか。
 - 事務局：人口の記述は庁内で統一するため、市の総合計画を引用している。その中では大神エリアの開発も見込んでいる。
- ★ 委員：高齢者が増加しているが、ゆめクラブの会員数は減少している。計画書22ページのコラムのような紹介があるのはありがたい。
- ★ 委員：ゆめクラブ同様、自治会の加入率も低下しているため、地域活動が住民に伝わっていない。広報ひらつかや地域の掲示板を活用して広く住民へ周知することを、計画書に記載できるとよい。
- ★ 委員：計画書37ページ及び52ページのコラム番号が重複しているので修正すべき。また、86ページ以降の説明をお願いします。
 - 事務局：86ページ以降のコラムは、計画書本文に溶け込ませていない状態のもの。今後コラムとしての体裁を整え、通番を振る予定。
- ★ 委員：計画書76ページの終活について、民生委員活動時に直面する機会も多く、事業として取り上げられておりよかった。一方で終活には、住居やお墓の処分といった大きな手続きを、高齢者自身が行わなければならない現状もあることから、検討の段階で気軽に相談できる窓口があるとよい。

質疑応答・意見交換後に、船水委員長から策定委員会としてリーディングプランの案について了承を図る動議があり、満場一致で承認された。

(3) 今後のスケジュールについて・・・資料2

(4) 策定後の推進体制、進行管理体制について・・・資料3

(事務局)

- 2019年度は、現行計画の進行管理期間であり、並行してリーディングプランの進行管理準備を進めていく。
- リーディングプラン策定後は、計画の「作りっぱなし」を避けるため、計画の推進体制、進行管理体制を敷く。
- 計画書178ページに、進行管理・推進体制のイメージ図を掲載した。

(質疑応答・意見交換)

- ★ 委員：リーディングプランの進捗管理について、どのように市民が確認できるようにするのか。
 - 事務局：進行管理を司る地域福祉懇話会は公開会議であるため、傍聴することが可能。また、同懇話会の資料として、進行管理のとりまとめをホームページ上で公開する予定。
- ★ 委員：市民向けの配布体制及びそのスケジュールはどのようになっているか。
 - 事務局：4月以降、策定委員へ送付するほか、一般市民向けには公民館などパブリックコメント冊子を配架した施設に送付することで対応する。冊子本体を希望する場合には有償となるが、電子データはホームページで無料公開する。
- ★ 委員：市民の目に一番触れるのは広報ひらつかである。紙面にリーディングプランの一部を掲載する等、広報を活用してほしい。

(5) 意見交換

各委員から、リーディングプランの策定に関する自由意見をいただいた。

- ★ 委員：高村エリアで進めようとしている高齢者対策を、全ての世帯に活用できるとよい。地域の活動が停滞していることが課題である。
- ★ 委員：地域の現状を知ることができた。県としてもバックアップしていきたい。
- ★ 委員：リーディングプランのボリュームに圧倒された。記載した内容を実行できるかどうか不安であるが、地域からの相談がたらい回しにならないよう対応していきたい。
- ★ 委員：リーディングプランの分量に驚いた。自殺対策に関わる中で、事業者から冊子を事業所に置きたいという申し出があった。今後も、ゲートキーパーをより多くの人へ広めていきたい。
- ★ 委員：成年後見制度については、「わかりづらい」という意見を他の懇話会でも聞くため、普及啓発が課題である。終活と関連させるなど、市民に身近に感じてもらえる方法でアプローチする必要がある。
- ★ 委員：計画書の概要版についてはどうなっているか。
 - 事務局：概要版も作成予定。周知・啓発に活用する。
- ★ 委員：平塚市の自治会加入率が平均約72%ということであるが、加入率の高さは県内でも上位である。介護保険の制度が創設され、老人会

が縮小しているが、今後は自治会も運営難になっていく。市民一人ひとりができることを考えていかなければならない。

- ★ 委員：リーディングプランは膨大な量であった。支援にあたっては、本当に助けを必要とする人ほど見えてこないという課題がある。自治会に参加していない人こそ困っているかもしれない。また、ボランティアではなくプロフェッショナルに相談したい人が多いと思う。相談することへの恥ずかしさや抵抗を抱えている人もいると思う。相談窓口のマップ等を作成してほしい。
- 事務局：自殺対策の事業として相談窓口の一覧を作成しており、市内全ての小中学校にも配布しているが、より広く周知できるよう、さらなる配布場所を検討する。
- ★ 委員：支援を必要とする子どもは、公共機関を訪れることはないと思う。民間事業所を加える等、配布場所を検討してほしい。
- ★ 委員：今までの計画書では高齢者対策が中心であったため、縦割りであったさまざまな制度に横軸を通すことができよかつた。子どもを通して大人が変わるといふ効果も期待できるため、教育機関を関係づけた点もよい。進捗管理については、事業の推進が不十分な事業だけでなく、順調であった場合にはうまく進捗した理由等をコメントとして残せるとよい。
- ★ 委員：障がい児の家族として、当事者及びその家族も、やってもらおうといふ意識を変え、自分ができることを考えなければならぬと改めて感じた。
- ★ 委員：障がい者団体はそれぞれにおいて、自団体のエゴが出てしまうことがあるが、策定委員会において他の委員の方に共鳴できたことが非常によかつた。また、透析患者は莫大な医療費がかかるが、国や県、市のサポートのおかげであると感じている。
- ★ 委員：ゆめクラブに関わっているが、ゆめクラブ運営からの引退後は福祉のお手伝いをしたいと思つていた。策定委員会はありがたい機会で、勉強になった。
- ★ 委員：人的動員も含め、充実した体制で計画書が作られたと感じる。今後、移動が困難な高齢者や障がい者はさらなる増加が見込まれる。有償運送業者の負担が増大する中で、策定委員会への参加は自身を奮い立たせる契機となった。
- ★ 委員：福祉は困つたときにありがたいものであるが、困っていない時には通り過ぎてしまう。高齢者と子どもの交流は大事であると感じる。委員会の中で、横のつながりができたと感じる。「おせっかいな人」

がたくさんいることが、住みやすいまちにつながるのではないか。

- ★ 委員：社会福祉法人には地域における公益的な取組みを実施する責務があるが、当法人においても、横のつながりを活かし、今一度できることを考えたい。
- ★ 委員：家庭環境の複雑化等、児童を取り巻く環境が悪化している。子を育てることは本当に大変であり、社会福祉法人としてできることを少しずつやっていきたい。また、福祉避難所については、要支援者の把握等どう準備したらよいかわからないため、情報提供をしてほしい。その他、自殺対策におけるSOSの出し方教育については、SOSを出した後の対応を間違えてはいけない。児童相談所と市との連携が必要であるが、うまくいっていない。
- ★ 委員：自分の地区での各種団体交流会の際、市長からリーディングプランの紹介があった。その時に資料があればわかりやすかった。計画がスムーズに実施できるよう期待している。
- ★ 委員：概要版が完成次第、民生委員児童委員へも周知したい。その上で、民生委員として何ができるかを考えたい。また、今年は一斉改選の年であり、自治会等のご協力を願いたい。民生委員活動は、長年やって初めて体得できる面もあるため、ぜひ若い人に民生委員になってほしい。
- ★ 委員：策定委員会への参加はとても勉強になった。社会のあり方が変容し、誰かに支えられることを嫌がる人もいる中で、「支える人」「支えられる人」と役割が固定化されない社会にしたい。地区社協においても、皆が手を差し伸べ合う風土を残し、リーディングプランの精神を踏まえて活動していきたい。
- ★ 委員：自分自身も地域福祉について改めて意識しなければいけないことがあると感じた。

事務局から終了の案内があり、第3回平塚市地域福祉計画策定委員会委員会、第3回平塚市地域福祉活動計画策定委員会を終了した。

以 上